

読者のみなさまへ

バブル経済の崩壊から 20 年が経過し、本格的な少子高齢化社会を迎えた我が国では、建設市場の縮小が止まらず、先行きの明るさはなかなか見えてきません。しかし、そのような厳しい状況の中でも、コンクリート技術者たちは、高品質で高付加価値のコンクリート構造物を低コストで構築するための技術開発を積極的に行ってきました。

この結果、(超)高強度コンクリートや CFT 構造といった高付加価値を実現する技術、フレッシュコンクリートの単位水量を測定する技術や、硬化コンクリートの収縮を抑制する技術など高品質を実現する技術が次々と開発され、実際のコンクリート構造物に活用されています。

一方、循環型社会の構築を目指した環境配慮型技術への取り組みも盛んに行われ、産業副産物を大量に使用することのできるコンクリート技術や、CO₂ 排出量の低減化を目指した技術などが実現しています。この 20 年を振り返ると、個別の技術開発だけでなく、エコセメントや再生骨材など、産業副産物の有効利用を積極的に考えた日本工業規格 (JIS) が制定されるような社会的潮流があったのも意義深いことです。

バブル期に見られたような、莫大な研究開発投資に後押しされた技術の発展とは違う形で進んだこの 20 年間ではありましたが、その分、内容の精査された研究開発がコンクリート技術をより良い方向へ牽引してきたのではないかと思います。

本書は、著者らが建設現場やレディーミクストコンクリート工場などで素朴な疑問として質問されたことや、実務者の人たちと一緒に解決にあたった問題などを中心に、Q&A 形式で最近のコンクリート技術の動向をまとめたものです。

本書が、実務の現場で日夜努力している方々のお役に立ち、良質なコンクリート構造物を建設するための一助となれば幸いです。

2012 年 6 月

著 者